

リョーガフェルテラ粒剤

[クロラントラニリプロール・チアジニル粒剤]

農林水産省登録 第24719号

有効成分 クロラントラニリプロール…
0.75%
チアジニル…12.0%

性状 類白色～淡褐色 及び 淡灰色～灰
色細粒

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
10kg×1 RACコード：殺虫[28]殺菌[P3]

危険物：- 有効年限：3年 包装：1kg×12、

特長

- 育苗箱処理でいもち病、水稻主要害虫（イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ）を同時防除できます。
- は種前～移植当日処理、移植時の側条施用、高密度は種など、幅広い使用場面で施薬可能です。
- チアジニルを製剤技術で進化させた、新しい長期持続型のいもち病防除です。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機で移植する。
- 稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布する。
- は種時に使用する際は、乾燥状態においては発芽遅延がみられることがあるため適切な水管理を行う。
- 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用する。
- 軟弱徒長苗、むれ苗又は苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意する。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整する。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意する。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1 箱当り50g	は種前	1回	本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内、本 田での散 布は2回 以内)
			は種時 (覆土 前) ~移 植当日		本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。		
			移植当日				
	いもち病	高密度には種する 場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1 箱当り50~ 100g)	は種前		本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
			は種時 (覆土 前) ~移 植当日		本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。		
			移植当日				
稲	いもち病	1kg/10a	移植時		側条施用	3回以内 (直播で のは種時 又は移植 時までの 処理は1 回以内、 本田での 散布は2 回以内)	

製品写真



最新の登録内容はこちら

